

注3

大学番号：私270

[令和元年度設置]

計画の区分： 学部の設置

注1

届出

広島文教大学 教育学部

注2

(旧名称：広島文教女子大学(令和元年度より大学名称変更))

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人武田学園

令和元年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学部

＜教育学科＞（初等教育専攻）	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

＜教育学科＞（中等教育専攻）	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	31
2. 授業科目の概要	35
3. 施設・設備の整備状況、経費	41
4. 既設大学等の状況	42
5. 教員組織の状況	43
6. 附帯事項等に対する履行状況等	52
7. その他全般的事項	53

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人武田学園

(2) 大学名

広島文教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-0295

広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダヨシテル) 武田義輝 (平成25年4月)		
学長	(モリシタヨウジ) 森下要治 (平成29年4月)		
学部長	(オカトシミチ) 岡利道 (平成31年4月)		
学科長等	(イマザキヒロシ) 今崎浩 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
教育学部	教育学・保育学関係	年	人	年次	人	
教育学科		4	150	人	600	
初等教育専攻		4	150		600	
中等教育専攻		4	120		480	
学士(教育学)		4	30		120	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 120 () []	人 () []	1.15倍	-	
志願者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	856 () []	[] () []			
受験者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	851 () []	[] () []			
合格者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	253 () []	[] () []			
B 入学者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	138 () []	[] () []			
入学定員超過率 B/A	-		-		-		-		1.15				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	138 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	138 [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
平成28年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	138 人	0 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{138} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学部 教育学科 初等教育専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	教育の思想と歴史	1前	2			1					
	発達と学習	1前	2			2					
	日本語学概論	1前	2			1					
	教師・保育者論	1後	2			1	1				
	教育方法学	1後	2			1	1				
	幼児の理解	1後		1			1				
	児童の理解	1後		1			1				
	野外活動	2前	2			1					
	教育の制度と経営	2後	2				1				
	特別支援教育	2後	2								1
計(10科目)	-	16	2	0	3	5	0	0	0	1	
専門教育科目	教育・保育のカリキュラムマネジメント	2前	2			1	1				
	道徳教育の理論と方法	2後	2				1				
	特別活動指導法	2後	2			1		1			
	生徒指導論	3前	2			1	1				
	学校教育相談	3前	2				1				
	総合的な学習とアクティブラーニング	3後	2								1
	進路指導とキャリア教育	3後	2				1				
	学校間連携教育	4前	2			2					
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1
	学校教育心理学	4前	2				1				
展開科目	保育原理	1後	2				1				
	社会福祉	2前	2								1
	児童家庭福祉	2後	2								1
	保育の心理学Ⅰ	1後	2				1				
	保育の心理学Ⅱ	3後	1				1				
	社会的養護	2前	2								1
	子ども家庭支援の心理学	2後	2				1				1
	家庭支援論	4前	2				1				1
	特別支援保育	3前	2								2
	保育相談支援	4前	1								1
小計(20科目)	-	2	36	0	2	5	1	0	0	9	
領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2			2					1
	教科の学び(算数)	1前	2			1					
	教科の学び(社会)	1前	2			1					
	教科の学び(理科)	1後	2				1				1
	教科の学び(生活)	2前	2			1	1				
	教科の学び(音楽)	1前	2					2			5
	教科の学び(図画工作)	1後	2			1					1
	教科の学び(家庭)	2前	2								1
	教科の学び(体育)	1後	2			1					2
	英語科・外国語活動	1後	2			2					
英語基礎演習	2前	2			1	1					
英語学概論	2前	2				1					
異文化理解	2後	2			2						
領域・教科の専門的事項と指導法	教材の研究と開発(国語)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(算数)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(社会)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(理科)	3前	2				1				
	教材の研究と開発(生活)	3前	2			1	1				
	教材の研究と開発(音楽)	3前	2					1			
	教材の研究と開発(図画工作)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(体育)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(英語)	3前	2			1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	教育の思想と歴史(幼・小)	1前	2			1					
	発達と学習(幼・小)	1前	2			2					
	日本語学概論	1前	2				1				
	教師・保育者論	1後	2			1	1				
	教育方法学(幼・小)	1後	2			1	1				
	幼児の理解	1後		1			1				
	児童の理解	1後		1			1				
	野外活動	2前	2			1					
	教育の制度と経営(幼・小)	2後	2				1				
	特別支援教育(幼・小)	2後	2								1
計(10科目)	-	16	2	0	4	4	0	0	0	1	
専門教育科目	保育・教育課程論	2前	2			1	1				
	道徳教育の理論と方法(小)	2後	2				1				
	特別活動指導法(小)	2後	2			1		1			
	生徒指導論(小)	3前	2			1	1				
	学校教育相談(幼・小)	3前	2				1				1
	総合的な学習の時間の指導法(小)	3後	2								1
	進路指導とキャリア教育(小)	3後	2				1				
	学校間連携教育	4前	2			2					
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1
	学校教育心理学	4前	2				1				
展開科目	保育原理	1後	2				1				
	社会福祉	2前	2								1
	児童家庭福祉	2後	2								1
	保育の心理学Ⅰ	1後	2				1				
	保育の心理学Ⅱ	3後	1				1				
	社会的養護	2前	2								1
	子ども家庭支援の心理学	2後	2				1				1
	家庭支援論	4前	2				1				1
	特別支援保育	3前	2								2
	保育相談支援	4前	1								1
小計(20科目)	-	4	34	0	2	5	1	0	0	10	
領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2			2					
	教科の学び(算数)	1前	2			1					
	教科の学び(社会)	1前	2			1					
	教科の学び(理科)	1後	2				1				1
	教科の学び(生活)	2前	2			1	1				
	教科の学び(音楽)	1前	2					2			5
	教科の学び(図画工作)	1後	2			1					1
	教科の学び(家庭)	2前	2								1
	教科の学び(体育)	1後	2			1					2
	英語科・外国語活動	1後	2			2					
英語基礎演習	2前	2			1	1					
英語学概論	2前	2				1					
異文化理解	2後	2			2						
領域・教科の専門的事項と指導法	教材の研究と開発(国語)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(算数)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(社会)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(理科)	3前	2				1				
	教材の研究と開発(生活)	3前	2			1	1				
	教材の研究と開発(音楽)	3前	2					1			
	教材の研究と開発(図画工作)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(体育)	3前	2			1					
	教材の研究と開発(英語)	3前	2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
	国語科教育法	2後	1		1					
	算数科教育法	2後	1		1					
	社会科教育法	2後	1		1					
	理科教育法	2前	1			1				
	生活科教育法	2後	1		1	1				
	音楽科教育法	2後	1				1			
	図画工作科教育法	2前	1		1					
	家庭科教育法	2後	1							1
	体育科教育法	2前	1		1					
	初等英語科教育法	2前	1		1					
	国語科教育法演習	3後	2		1					
	算数科教育法演習	3後	2		1					
	社会科教育法演習	3後	2		1					
	理科教育法演習	3後	2			1				
	生活科教育法演習	3後	2		1	1				
	音楽科教育法演習	3後	2				1			
	図画工作科教育法演習	3後	2		1					
	体育科教育法演習	3後	2		1					
	初等英語科教育法演習	3後	2		1					
c	子どもと保育内容(健康)	1前	1		1					
	子どもと保育内容(人間関係)	1後	1			1				
	子どもと保育内容(環境)	1前	1		1					
	子どもと保育内容(言葉)	1後	1			1				
	子どもと保育内容(表現)	1後	1		1		1			
	子どもの保健Ⅰ	3前	2							1
	保育の表現技術Ⅰ	2後	2				1			2
保育の表現技術Ⅱ	3前	2		1					2	
d	保育内容総論	3前	1			2				
	教材の研究と開発(健康)	3後	2		1					
	教材の研究と開発(人間関係)	3後	2			1				
	教材の研究と開発(環境)	3後	2		1					
	教材の研究と開発(言葉)	3後	2			1				
	教材の研究と開発(表現)	3後	2		1		1			
	保育内容の指導法(健康)	2後	1		1					
	保育内容の指導法(人間関係)	2前	1			1				
	保育内容の指導法(環境)	2後	1		1					
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1			1				
	保育内容の指導法(表現)	2前	1		1		1			1
	社会的養護内容	2後	1							1
	乳児保育論	2後	2			1				
乳児保育	3前	1			1					
子どもの保健Ⅱ	4前	1							1	
子どもの食と栄養	4後	2							1	
小計(65科目)		-	0	106	0	11	6	2	0	18
計(85科目)		-	2	142	0	11	8	2	0	25
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2		1					
	幼児教育の体験活動	2通	2			2				
	教育実習Ⅰ	3前	1		1	1				
	教育実習Ⅱ	3後	2		1	1				
	教育実習Ⅲ	3後-4前	2		2					
	保育実習Ⅰ(保育所)	3前	2			1				
	保育実習Ⅰ(施設)	3前	2			1				
	保育実習Ⅱ	3後	2			1				
	保育実習Ⅲ	3後	2			1				
	保育実習指導ⅠA	2後	1		1					
	保育実習指導ⅠB	3前	1		1					
	保育実習指導Ⅱ	3後	1			1				
	保育実習指導Ⅲ	3後	1			1				
	教職実践演習(幼・小)	4後	2			1	1			
計(14科目)		-	0	23	0	2	3	0	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
	国語科教育法	2後	1		1					
	算数科教育法	2後	1		1					
	社会科教育法	2後	1		1					
	理科教育法	2前	1			1				
	生活科教育法	2後	1		1	1				
	音楽科教育法	2後	1				1			
	図画工作科教育法	2前	1		1					
	家庭科教育法	2後	1							1
	体育科教育法	2前	1		1					1
	初等英語科教育法	2前	1		1					
	国語科教育法演習	3後	2		1					
	算数科教育法演習	3後	2		1					
	社会科教育法演習	3後	2		1					
	理科教育法演習	3後	2			1				
	生活科教育法演習	3後	2		1	1				
	音楽科教育法演習	3後	2				1			
	図画工作科教育法演習	3後	2		1					
	体育科教育法演習	3後	2		1					
	初等英語科教育法演習	3後	2		1					
c	子どもと保育内容(健康)	1前	1		1					
	子どもと保育内容(人間関係)	1後	1			1				
	子どもと保育内容(環境)	1前	1		1					
	子どもと保育内容(言葉)	1後	1			1				
	子どもと保育内容(表現)	1後	1		1		1			1
	子どもの保健Ⅰ	3前	2							1
	保育の表現技術Ⅰ	2後	2				1			2
保育の表現技術Ⅱ	3前	2		1					2	
d	保育内容総論	3前	1			2				
	教材の研究と開発(健康)	3後	2		1					
	教材の研究と開発(人間関係)	3後	2			1				
	教材の研究と開発(環境)	3後	2		1					
	教材の研究と開発(言葉)	3後	2			1				1
	教材の研究と開発(表現)	3後	2		1		1			
	保育内容の指導法(健康)	2後	1		1					
	保育内容の指導法(人間関係)	2前	1			1				
	保育内容の指導法(環境)	2後	1		1					
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1			1				1
	保育内容の指導法(表現)	2前	1		1		1			1
	社会的養護内容	2後	1							1
	乳児保育論	2後	2			1				
乳児保育	3前	1			1					
子どもの保健Ⅱ	4前	1							1	
子どもの食と栄養	4後	2							1	
小計(65科目)		-	0	106	0	12	5	2	0	21
計(85科目)		-	4	140	0	12	7	2	0	29
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2		1					
	幼児教育の体験活動	2通	2			2				
	教育実習Ⅰ	3前	1		1	1				
	教育実習Ⅱ	3後	2		1	1				
	教育実習Ⅲ	3後-4前	2		2					
	保育実習Ⅰ(保育所)	3前	2			1				
	保育実習Ⅰ(施設)	3前	2			1				
	保育実習Ⅱ	3後	2			1				
	保育実習Ⅲ	3後	2			1				
	保育実習指導ⅠA	2後	1		1					
	保育実習指導ⅠB	3前	1		1					
	保育実習指導Ⅱ	3後	1			1				
	保育実習指導Ⅲ	3後	1			1				
	教職実践演習(幼・小)	4後	2			1	1			
計(14科目)		-	0	23	0	2	3	0	0	0

	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
生涯教育系	運動学演習Ⅲ	2前	1								1	
	運動学演習Ⅳ	2後	1								1	
	生涯学習概論	1後	2								1	
	健康とスポーツ	1後	1								1	
	制作技法演習Ⅰ	3-4前	1		1							
	制作技法演習Ⅱ	3-4後	1		1							
	障害者コミュニケーション技術	1前	1								1	
小計(31科目)	-	6	42	0	2	0	0	0	0	0	11	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2								1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前	2								1	
	インターンシップ	2前	2								1	
	プレゼンテーション技法	2後	2								1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2								1	
	ビジネス文書	3後	2								1	
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)		-	10	100	0	6	2	0	0	0	0	31
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
	情報資源組織演習	2後		2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)		-	0	0	24	1	1	0	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2		1						
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)		-	0	0	10	1	2	0	0	0	0	1
総合計(196科目)		-	42	267	34	11	10	2	0	0	0	61

	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
生涯教育系	運動学演習Ⅲ	2前	1								1	
	運動学演習Ⅳ	2後	1								1	
	生涯学習概論	1後	2								1	
	健康とスポーツ	1後	1								1	
	制作技法演習Ⅰ	3-4前	1		1							
	制作技法演習Ⅱ	3-4後	1		1							
	障害者コミュニケーション技術	1前	1									6
小計(31科目)	-	6	42	0	2	0	0	0	0	0	22	
キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2								1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前	2								1	
	インターンシップ	2前	2								1	
	プレゼンテーション技法	2後	2								1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2								1	
	ビジネス文書	3後	2								1	
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)		-	10	100	0	6	2	0	0	0	0	42
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
	情報資源組織演習	2後		2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)		-	0	0	24	1	1	0	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2		1						
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)		-	0	0	10	1	2	0	0	0	0	1
総合計(196科目)		-	44	265	34	12	9	2	0	0	0	73

卒業要件及び履修方法
<p>【教養教育科目】</p> <p>① 人間学科目群から4単位以上</p> <p>② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上</p> <p>③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上</p> <p>④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び必修選択科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目16単位を修得し、教養教育科目・基礎科目・展開科目・実践科目から65単位以上、合計128単位以上修得すること。</p> <p>なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。</p> <p>《幼児教育コース》</p> <p><幼稚園教諭一種免許状></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、学校教育相談、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上を修得すること。</p> <p><保育士資格></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。</p> <p>《児童教育コース》</p> <p><小学校教諭一種免許状></p> <p>教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。</p> <p>【司書】</p> <p>司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。</p> <p>【司書教諭】</p> <p>司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。</p> <p>① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。</p> <p>② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。</p>
<p>【教養教育科目】</p> <p>① 人間学科目群から4単位以上</p> <p>② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上</p> <p>③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上</p> <p>④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。</p> <p>なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。</p> <p>《幼児教育コース》</p> <p><幼稚園教諭一種免許状></p> <p>保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。</p> <p><保育士資格></p> <p>保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。</p> <p>《児童教育コース》</p> <p><小学校教諭一種免許状></p> <p>保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。</p> <p>【司書】</p> <p>司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。</p> <p>【司書教諭】</p> <p>司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。</p> <p>① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。</p> <p>② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入**してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更
 - ・「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法」に変更
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更(元の科目名に(幼・小)または(小)を追記)
 - ・教育の思想と歴史(幼・小) ・発達と学習(幼・小) ・教育方法学(幼・小) ・教育の制度と経営(幼・小)
 - ・特別支援教育(幼・小) ・道徳教育の理論と方法(小) ・特別活動指導法(小) ・生徒指導論(小)
 - ・学校教育相談(幼・小) ・総合的な学習の時間の指導法(小) ・進路指導とキャリア教育(小)
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名及び履修区分を変更
 - ・「教育・保育のカリキュラムマネジメント」を「保育・教育課程論」に変更し、「選択」から「必修」に変更
- ・教職課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・学校教育相談(幼・小)(准教授1から兼任1に変更)
 - ・体育科教育法(教授1から教授1, 兼任1に変更)
 - ・子どもと保育内容(表現)(教授1, 講師1から教授1, 講師1, 兼任1に変更)
 - ・教材の研究と開発(言葉)(准教授1から准教授1, 兼任1に変更)
 - ・保育内容の指導法(言葉)(准教授1から准教授1, 兼任1に変更)
- ・昇任人事により、専任教員等の配置を変更
 - ・日本語学概論(准教授1から教授1に変更)
 - ・子どもと保育内容(言葉)(准教授1から教授1に変更)
- ・入学者数の増加に伴いクラスを分割することとしたため、教員配置を変更
 - ・英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ(兼任2から兼任8に変更)
 - ・障害者コミュニケーション技術(兼任1から兼任6に変更)

- (;注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21	157	18	196	22	156	18	196	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	

- (;注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{196} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎の建て替えにより校舎敷地が減少した		
	校舎敷地	26,158 26 -362㎡	0㎡	0㎡	26,158 26 -362㎡			
	運動場用地	15,912㎡	0㎡	0㎡	15,912㎡			
	小 計	42,070 42 -274㎡	0㎡	0㎡	42,070 42 -274㎡			
	そ の 他	27,411㎡	0㎡	0㎡	27,411㎡			
	合 計	69,481 69 -685㎡	0㎡	0㎡	69,481 69 -685㎡			
(2) 校 舎	専 用	25,498㎡	0㎡	0㎡	25,498㎡			
	(25,498㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,498㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	3室	19室	5室	1室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			予定していた専任教員研究室をゼミ室として使用することとしたため		
	教育学部 教育学科		21 23 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
	教育学部	冊	種	点	点	点		
		95,965 [18,972] (95,056 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,547)	246 (202)	15 (6)	
計	95,965 [18,972] (95,056 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,547)	246 (202)	15 (6)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	3,000㎡		290席		300,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
	3,103㎡		テニスコート: 2,769㎡		プール: 827㎡			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	250千円	250千円	図書購入費	1235千円	1235千円	1235千円
	共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	1900千円	4000千円	800千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
		1250千円	1250千円	1250千円	1250千円	0千円	0千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	〇〇大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	150	0	600	学士 (教育学)	1.12	-	令和元	-	
教育学科	4	150	0	600	学士 (教育学)	1.12	-	令和元	広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1	
初等教育専攻	4	120	0	480	学士 (教育学)	1.15	-	令和元	同上	
中等教育専攻	4	30	0	120	学士 (教育学)	1.00	-	令和元	同上	
人間科学部	4	240	3年次 35	1,030	-	0.81	令和元	昭和41	同上	平成12年文学部から 学部名称変更 令和元年学生募集 停止
初等教育学科	4	-	-	-	学士 (文学)	1.29	-	昭和56	同上	
人間福祉学科	4	60	3年次 20	280	学士 (文学)	0.56	令和元	平成12	同上	定員変更(△20)
心理学科	4	50	3年次 10	220	学士 (文学)	0.75	令和元	平成14	同上	定員変更(△20)
人間栄養学科	4	70	0	280	学士 (栄養学)	0.84	-	平成14	同上	
グローバルコミュニケーション学科	4	60	3年次 5	250	学士 (文学)	0.57	令和元	平成22	同上	定員変更(△10)
大学全体	4	390	35	1,630	-	0.78	-	-	-	
大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
該当なし										

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 教育学科> (初等教育専攻)

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和元年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別
		担当授業科目名	職名
			氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
			担当授業科目名
専	教授	岡 利 道 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	専
		教師・保育者論 ※ 国語科教育法 教材の研究と開発(国語) 国語科教育法演習 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 読書と豊かな人間性	専
			教師・保育者論 ※ 国語科教育法 教材の研究と開発(国語) 国語科教育法演習 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 読書と豊かな人間性
専	教授	石 原 義 文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	専
		英語科・外国語活動の学び 異文化理解 初等英語科教育法 初等英語科教育法演習 教材の研究と開発(英語)	専
		英語科・外国語活動の学び 異文化理解 初等英語科教育法 初等英語科教育法演習 教材の研究と開発(英語)	専
専	教授	今 嶋 浩 (56) <平成31年4月> 修士(教育学)	専
		教科の学び(算数) 特別活動指導法 ※ 算数科教育法 算数科教育法演習 生徒指導 ※ 教材の研究と開発(算数) 学校間連携教育 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※	専
		教科の学び(算数) 特別活動指導法(小) ※ 算数科教育法 算数科教育法演習 生徒指導(小) ※ 教材の研究と開発(算数) 学校間連携教育 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※	専
専	教授	川 西 正 行 (63) <平成31年4月> 教育学修士	専
		子どもと保育内容(健康) 教科の学び(体育) ※ 体育科教育法 保育内容の指導法(健康) 教材の研究と開発(体育) 体育科教育法演習 教材の研究と開発(健康) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 運動学演習Ⅰ	専
		子どもと保育内容(健康) 教科の学び(体育) ※ 体育科教育法 ※ 保育内容の指導法(健康) 教材の研究と開発(体育) 体育科教育法演習 教材の研究と開発(健康) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 運動学演習Ⅰ	専
専	教授	小 西 弘 信 (55) <平成31年4月> 文学修士	専
		英語基礎演習 欧米と日本	専
		英語基礎演習 欧米と日本	専
専	教授	佐 伯 育 郎 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	専
		児童の理解 教科の学び(図画工作) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 学校教育の体験活動(小) 図画工作科教育法 保育内容の指導法(表現) ※ 図画工作科教育法演習 教材の研究と開発(表現) ※ 教材の研究と開発(図画工作) 保育の表現技術Ⅱ ※ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専
		児童の理解 教科の学び(図画工作) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 学校教育の体験活動(小) 図画工作科教育法 保育内容の指導法(表現) ※ 図画工作科教育法演習 教材の研究と開発(表現) ※ 教材の研究と開発(図画工作) 保育の表現技術Ⅱ ※ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専
専	教授	笹原 豊 造 (68) <平成31年4月> 修士(教育学)	専
		異文化理解 英語科・外国語活動の学び	専
		異文化理解 英語科・外国語活動の学び	専

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	杉山 浩之 (60) <平成31年4月> 教育学修士※	子どもと保育内容(環境) 教育方法学 ※ 野外活動 教育・保育のかわらばんプロジェクト※ 保育内容の指導法(環境) 保育実習指導1A 保育実習指導1B 教材の研究と開発(環境) 教育実習Ⅲ 学校間連携教育 ※ 教職実践演習(幼・小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	教授	杉山 浩之 (60) <平成31年4月> 教育学修士※	子どもと保育内容(環境) 教育方法学(幼・小) ※ 野外活動 保育・教育課程論 ※ 保育内容の指導法(環境) 保育実習指導1A 保育実習指導1B 教材の研究と開発(環境) 教育実習Ⅲ 学校間連携教育 ※ 教職実践演習(幼・小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	教授	橋村 勝明 (50) <平成31年4月> 博士(文学)	教科の学び(国語) ※ 言葉とコミュニケーション	専	教授	橋村 勝明 (50) <平成31年4月> 博士(文学)	教科の学び(国語) ※ 言葉とコミュニケーション
専	教授	村上 典章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学)	教科の学び(社会) 社会科教育法 生活科教育法 教科の学び(生活) 社会科教育法演習 生活科教育法演習 教材の研究と開発(社会) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 日本国憲法 ※	専	教授	村上 典章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学)	教科の学び(社会) 社会科教育法 生活科教育法 教科の学び(生活) 社会科教育法演習 生活科教育法演習 教材の研究と開発(社会) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 日本国憲法 ※
専	教授	森 哲之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)	教科の学び(国語) ※ 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ	専	教授	森 哲之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学)	教科の学び(国語) ※ 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ
専	准教授	猪川 優子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)	学習指導と学校図書館	専	准教授	猪川 優子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)	学習指導と学校図書館
専	准教授	上利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)	英語基礎演習 英語学概論	専	准教授	上利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)	英語基礎演習 英語学概論
専	准教授	上村 加奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育・保育のかわらばんプロジェクト※ 保育内容の指導法(言葉) 保育内容総論 ※ 乳児保育論 乳児保育 保育実習Ⅰ(保育所) 教育実習Ⅰ 教材の研究と開発(言葉) 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	准教授	上村 加奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)	保育・教育課程論 ※ 保育内容の指導法(言葉) ※ 保育内容総論 ※ 乳児保育論 乳児保育 保育実習Ⅰ(保育所) 教育実習Ⅰ 教材の研究と開発(言葉) ※ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	黒木 晶子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	日本語学概論 子どもと保育内容(言葉)	専	教授	黒木 晶子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	日本語学概論 子どもと保育内容(言葉)
専	准教授	三田 幸司 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(理科) ※ 生活科教育法 教科の学び(生活) 理科教育法 生活科教育法演習 理科教育法演習 教材の研究と開発(理科) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※ くらしと自然	専	准教授	三田 幸司 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(理科) ※ 生活科教育法 教科の学び(生活) 理科教育法 生活科教育法演習 理科教育法演習 教材の研究と開発(理科) 教材の研究と開発(生活) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 大学での学びⅡ ※ くらしと自然

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)	教育方法学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館	専	准教授	庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)	教育方法学(幼・小) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 メディアと社会 図書館概論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専	准教授	白石 崇人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)	教師・保育者論 ※ 教育の思想と歴史 教育学入門 教育の制度と経営 道徳教育の理論と方法 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	准教授	白石 崇人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)	教師・保育者論 ※ 教育の思想と歴史(幼・小) 教育学入門 教育の制度と経営(幼・小) 道徳教育の理論と方法(小) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	田中 崇教 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)	保育原理 幼児教育の体験活動 教育実習Ⅱ 保育内容総論 ※ 教職実践演習(幼・小) 家庭支援論 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	准教授	田中 崇教 (43) <平成31年4月> 修士(教育学)	保育原理 幼児教育の体験活動 教育実習Ⅱ 保育内容総論 ※ 教職実践演習(幼・小) 家庭支援論 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	新見 直子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習 ※ 進路指導とキャリア教育 学校教育心理学 生徒指導論 ※ 子ども家庭支援の心理学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	准教授	新見 直子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(幼・小) ※ 進路指導とキャリア教育(小) 学校教育心理学 生徒指導論(小) ※ 子ども家庭支援の心理学 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	牧 亮太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習 ※ 幼児の理解 学校教育相談 保育の心理学Ⅰ 子どもと保育内容(人間関係) 幼児教育の体験活動 保育内容の指導法(人間関係) 保育の心理学Ⅱ 教材の研究と開発(人間関係) 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ(施設) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	准教授	牧 亮太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(幼・小) ※ 幼児の理解 保育の心理学Ⅰ 子どもと保育内容(人間関係) 幼児教育の体験活動 保育内容の指導法(人間関係) 保育の心理学Ⅱ 教材の研究と開発(人間関係) 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅰ(施設) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※	教科の学び(音楽) 特別活動指導法 ※ 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	講師	大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※	教科の学び(音楽) 音楽科教育法 音楽科教育法演習 教材の研究と開発(音楽) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	講師	長 澤 希 (33) <平成31年4月> 修士(教育学)	教科の学び(音楽) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 教材の研究と開発(表現) ※ 保育の表現技術Ⅰ ※ 保育内容の指導法(表現) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	講師	長 澤 希 (33) <平成31年4月> 修士(教育学)	教科の学び(音楽) ※ 子どもと保育内容(表現) ※ 教材の研究と開発(表現) ※ 保育の表現技術Ⅰ ※ 保育内容の指導法(表現) ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
兼任	教授	植 田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士 ※	子ども家庭支援の心理学 ※ 子どもと社会	兼任	教授	植 田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士 ※	子ども家庭支援の心理学 ※ 子どもと社会

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	木村 敦子 (62) <平成31年4月> 教育学修士	兼任	教授	木村 敦子 (62) <平成31年4月> 教育学修士
		保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※			保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田村 進 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)	兼任	教授	田村 進 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(体育)※			教科の学び(体育)※
兼任	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	兼任	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※
		文学を読む意味			文学を読む意味
兼任	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	兼任	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士
		運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ			運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	兼任	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士
		からだと健康			からだと健康
兼任	教授	河村 大造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)	兼任		
		食の科学			
兼任	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	兼任	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士
		社会と生命科学			社会と生命科学
兼任	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	兼任	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※
		くらしの中の心理学			くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康			異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任	教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士	兼任	教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士
		大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生涯学習概論 プレゼンテーション技法			大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生涯学習概論 プレゼンテーション技法
兼任	教授	松原 淳一 (61) <平成31年4月> 法学士	兼任	教授	松原 淳一 (61) <平成31年4月> 法学士
		くらしと経済			くらしと経済
兼任	教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	兼任	教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)
		文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史			文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	兼任	准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会福祉 児童家庭福祉 日本国憲法 ※ くらしと社会福祉			社会福祉 児童家庭福祉 日本国憲法 ※ くらしと社会福祉
兼任	准教授	西山 美香 (55) <平成31年4月> 修士(保健学)※	兼任	准教授	西山 美香 (55) <平成31年4月> 修士(保健学)※
		子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ			子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ
兼任	准教授	阿武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	兼任	准教授	阿武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)
		社会と生命科学			社会と生命科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	伊藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	准教授	尾崎 英司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	准教授	溝渕 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会
兼任	講師	塩田 良子 (34) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小原 寿美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和上 順子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	イングリッシュワークショップⅠ イングリッシュワークショップⅡ イングリッシュワークショップⅢ イングリッシュワークショップⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (46) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (37) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	伊藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	教授	尾崎 英司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	准教授	溝渕 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会
兼任	講師	塩田 良子 (34) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小原 寿美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和上 順子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	イングリッシュワークショップⅠ イングリッシュワークショップⅡ イングリッシュワークショップⅢ イングリッシュワークショップⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (46) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (37) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黒 飛 知 香 (38) <平成31年4月> 博士(農学)	食の科学
兼任	講師	Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	Lorna Layntes Beduya (46) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English(イギリス)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	Julia Daley Amalia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	講師	Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学) 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
			兼任	講師	Cristina Tong Malimban (47) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (4-A397) 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	助教	戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	兼任	助教	戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)
		食生活と健康 ※			食生活と健康 ※
兼任	講師	高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)
		総合的な学習と7科目「ラーニング」			総合的な学習の時間の指導法 (小)
兼任	講師	西村 富美雄 (77) <平成31年4月> 教育学士	兼任	講師	西村 富美雄 (77) <平成31年4月> 教育学士
		教科の学び(図画工作) ※			教科の学び(図画工作) ※
兼任	講師	吉田 裕午 (67) <平成31年4月> 理学修士	兼任	講師	吉田 裕午 (67) <平成31年4月> 理学修士
		教科の学び(理科)			教科の学び(理科)
兼任	講師	大多和 幸子 (62) <平成31年4月> 教育学士	兼任	講師	大多和 幸子 (62) <平成31年4月> 教育学士
		教科の学び(体育) ※			教科の学び(体育) ※
兼任	講師	枝川 泰子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	枝川 泰子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)
		教科の学び(音楽)			教科の学び(音楽)
兼任	講師	魚住 恵 (54) <平成31年4月> 博士(音楽)	兼任	講師	魚住 恵 (54) <平成31年4月> 博士(音楽)
		教科の学び(音楽)			教科の学び(音楽)
兼任	講師	北林 聖子 (45) <平成31年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	北林 聖子 (45) <平成31年4月> 修士(音楽)
		教科の学び(音楽)			教科の学び(音楽)
兼任	講師	大城 要 (42) <平成31年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	大城 要 (42) <平成31年4月> 修士(音楽)
		教科の学び(音楽)			教科の学び(音楽)
兼任	講師	戸田 真理 (53) <平成31年4月> 芸術学士	兼任	講師	戸田 真理 (53) <平成31年4月> 芸術学士
		教科の学び(音楽)			教科の学び(音楽)
兼任	講師	宮里 智恵 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	宮里 智恵 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)
		教科の学び(家庭) 家庭教育法			教科の学び(家庭) 家庭教育法
兼任	講師	善本 桂子 (65) <令和2年4月> 芸術学士	兼任	講師	善本 桂子 (65) <令和2年4月> 芸術学士
		保育の表現技術Ⅰ ※			保育の表現技術Ⅰ ※ 子どもと保育内容(表現) ※
兼任	講師	藤田 由美子 (62) <令和3年4月> 修士(文学)	兼任	講師	藤田 由美子 (62) <令和3年4月> 修士(文学)
		保育の表現技術Ⅱ ※			保育の表現技術Ⅱ ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		
兼任	講師	岡本礼子 (65) <令和3年4月> 学士(造形)	岡本礼子 (65) <令和3年4月> 学士(造形)
	保育の表現技術Ⅱ ※		保育の表現技術Ⅱ ※
兼任	講師	酒井珠江 (60) <令和4年4月> 学士(福祉経営学)	酒井珠江 (60) <令和4年4月> 学士(福祉経営学)
	家庭支援論 ※		家庭支援論 ※
兼任	講師	若松昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	若松昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)
	インクルーシブ教育・保育		インクルーシブ教育・保育
兼任	講師	宮木秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	宮木秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)
	特別支援教育		特別支援教育(幼・小)
兼任	講師	古田壽子 (71) <令和3年4月> 教育学士	古田壽子 (71) <令和3年4月> 教育学士
	特別支援保育 ※		特別支援保育 ※
兼任	講師	二宮恵子 (40) <令和2年4月> 修士(音楽)	二宮恵子 (40) <令和2年4月> 修士(音楽)
	保育内容の指導法(表現) ※		保育内容の指導法(表現) ※
兼任	講師	塚村英幸 (72) <令和2年4月> 教育学士	塚村英幸 (72) <令和2年4月> 教育学士
	社会的養護 社会的養護内容		社会的養護 社会的養護内容
兼任	講師	石川幸枝 (76) <令和4年4月> 短期大学士	石川幸枝 (76) <令和4年4月> 短期大学士
	保育相談支援		保育相談支援
兼任	講師	衛藤吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	衛藤吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)
	現代思想と哲学		現代思想と哲学
兼任	講師	河野美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	河野美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒
	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	戸板律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	戸板律子 (56) <令和2年4月> 学術修士
	フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ		フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任	講師	沼田有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	沼田有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)
	日本とヒロシマの歴史		日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	野村卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)
	現代思想と哲学		現代思想と哲学
兼任	講師	桃井しづ (65) <平成31年4月> 文学士	桃井しづ (65) <平成31年4月> 文学士
	障害者コミュニケーション技術		障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	山川秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	山川秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)
	くらしと法律		くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士
	人権問題の歩みとその展望		人権問題の歩みとその展望

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文学士
		図書館制度・経営論			図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士
		図書館サービス概論			図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)
		情報資源組織論 情報資源組織演習			情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士
		学校経営と学校図書館			学校経営と学校図書館
兼任	講師	山田 洋平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	山田 洋平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)
		学校教育相談(幼・小)			学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (51) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	大後戸 一樹 (51) <令和2年4月> 博士(教育学)
		体育科教育法 ※			体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (72) <令和3年4月> 教育学修士	兼任	講師	友定 寛治 (72) <令和3年4月> 教育学修士
		教材の研究と開発(営業) ※			教材の研究と開発(営業) ※
兼任	講師	中井 篤加 (35) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	中井 篤加 (35) <令和2年4月> 博士(教育学)
		保育内容の指導法(営業) ※			保育内容の指導法(営業) ※
兼任	講師	關 真智子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	關 真智子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論			生涯学習概論
兼任	講師	上土 麗 綾 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	兼任	講師	上土 麗 綾 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	大西 章雄 (72) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	大西 章雄 (72) <平成31年4月> 文学士
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	川本 忠夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	兼任	講師	川本 忠夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	畠田 明子 (67) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	兼任	講師	畠田 明子 (67) <平成31年4月> ろう学校高等部卒
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	山本 和泰 (60) <平成31年4月> 準学士	兼任	講師	山本 和泰 (60) <平成31年4月> 準学士
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を入力してください。(過年度については、各年度末時点の情報として入力してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任・兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、今崎浩教授（専任）担当科目「特別活動指導法※」を「特別活動指導法(小)※」に、今崎浩教授（専任）担当科目「生徒指導論※」を「生徒指導論(小)※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により、川西正行教授（専任）担当科目「体育科教育法」を「体育科教育法※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、杉山浩之教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学(幼・小)※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により杉山浩之教授（専任）担当科目「教育・保育のカリキュラムマネジメント※」を「保育・教育課程論※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により上村加奈准教授（専任）担当科目「教育・保育のカリキュラムマネジメント※」を「保育・教育課程論※」に、「保育内容の指導法(言葉)」を「保育内容の指導法(言葉)※」に、「教材の研究と開発(言葉)」を「教材の研究と開発(言葉)※」に変更
- ・黒木晶子准教授（専任）が昇任したため、職名を教授に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、庄（小川）ゆかり准教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学(幼・小)※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、白石宗人准教授（専任）担当科目「教育の思想と歴史」を「教育の思想と歴史(幼・小)」に、「教育の制度と経営」を「教育の制度と経営(幼・小)」に、「道徳教育の理論と方法」を「道徳教育の理論と方法(小)」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、新見直子准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習(幼・小)※」に、「進路指導とキャリア教育」を「進路指導とキャリア教育(小)」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論(小)※」に
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、牧亮太准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習(幼・小)※」に変更
- ・河村大造教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・尾崎英司准教授（兼任）が昇任したため、職名を教授に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の授業科目に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・専任教員が辞退したため、黒飛知香講師（兼任）担当授業科目「食の科学」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Kelly Eileen Rose講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Julia Daley Amalia講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Tyler Montgomery講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Cristina Tong Malimban講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・教職課程認定における指摘により高橋泰道講師（兼任）担当科目「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法」に変更
- ・教職課程認定における指摘により善本桂子講師（兼任）担当科目に「子どもと保育内容(表現)※」を追加
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、宮木秀雄講師（兼任）担当科目「特別支援教育(幼・小)」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたこと及び授業方法の見直しにより、桃井しづ（兼任）講師担当科目「障害者コミュニケーション技術」を「障害者コミュニケーション技術※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により山田洋平講師（兼任）担当授業科目「学校教育相談(幼・小)」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により大後戸一樹講師（兼任）担当授業科目「体育科教育法※」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により友定賢治講師（兼任）担当授業科目「教材の研究と開発(言葉)※」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により中井悠加講師（兼任）担当授業科目「保育内容の指導法(言葉)※」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により國貞智子樹講師（兼任）担当授業科目「生涯学習概論」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、上土居理絵講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、大西章雄講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、川本忠夫講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、春田明子講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、山本和奈講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
11	10	2	0	23	12	9	2	0	23
(11)	(10)	(2)	(0)	(23)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
12	9	2	0	23	11	10	2	0	23
[1]	[Δ 1]	(0)	(0)	(0)	[1]	[Δ 1]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{23}{23} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{1}{23} = \boxed{4.34} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科> (初等教育専攻)

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的として、高等教育研究センターを設置し、目的を達成のための具体的事項は、学長補佐1名を含む教員10名と事務職員4名(令和元年度)で構成する運営委員会において検討・審議を行っている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

高等教育研究センター運営委員会は、毎月1回の開催で平成30年度は12回開催し、毎回の会議ではほぼ全員の委員が出席した。

c 委員会の審議事項等

高等教育研究センター運営委員会審議事項

(広島文教大学高等教育研究センター運営委員会規程第2条)

- (1) 広島文教大学高等教育研究センター(以下「センター」という。)の業務及び運営に関する事。
- (2) その他センターに関し必要な事項に関する事。

広島文教大学高等教育研究センターの業務

(広島文教大学高等教育研究センター規程第3条)

- (1) 高等教育に係る調査及び研究に関する事。
- (2) 高等教育の質保証に係る支援及び推進に関する事。
- (3) 高等教育に関する情報の収集及び分析に関する事。
- (4) 情報の公開に関する事。
- (5) 将来構想の企画・立案に関する事。
- (6) ファカルティ・デベロップメントに関する事。
- (7) センター刊行物の編集及び刊行に関する事。
- (8) 研究倫理に関する事。
- (9) その他、センターの目的を達成するために必要な業務

② 実施状況

a 実施内容

<平成30年度実績>

1. 公開授業(教員相互の授業参観)の実施
2. FD・SD研修会の実施
3. 広島文教女子大学紀要の発行
4. 広島文教女子大学高等教育研究の発行

※ 昨年度(平成30年度)の高等教育研究センター運営委員会では「新任教員研修プログラム」について検討し、今年度から実施する予定

b 実施方法

1. 公開授業(教員相互の授業参観)

学生による授業評価アンケートの結果に基づいて、評価の高い授業を前・後期それぞれ5科目づつ公開授業対象科目として決定し、教職員に周知している。

2. FD・SD研修会

毎回の研修会について、高等教育研究センター運営委員会でテーマを設定し、学内から教員、事務職員を問わず適任者を講師として選出・決定して実施している。

3. 広島文教女子大学紀要の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

4. 広島文教女子大学高等教育研究の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 公開授業（教員相互の授業参観）

前期（7月第2週目―第3週目）：5科目の公開授業を計画していたが、西日本豪雨の影響により中止
後期（12月第2週目―第3週目）：5科目の公開授業を実施し、出席参観者総数は37名
※ アンケート回答（18名）では総じて他の授業を参観して自身の授業改善の参考になったとの意見が多数寄せられた

2. FD・SD研修会

夏期（8月23日、24日）：2日間にわたり、分科会では5講座、全体会では3講座を実施。（参加者89名）
冬期（3月8日）：分科会で3講座、全体会で3講座を実施。（参加者67名）

3. 広島文教女子大学紀要

教員の研究活動支援促進として、広島文教女子大学紀要53巻を発行し、6編の原著論文を掲載。

4. 広島文教女子大学高等教育研究

教員の研究活動支援促進として、広島文教女子大学高等教育研究第5巻を発行し、7編の原著論文を掲載。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質の維持向上を目的とするFD・SD活動のうち、「1. 公開授業」及び「2. FD・SD研修会」については、実施後に参加者へのアンケート調査を行っている。公開授業については、参加者のFDの機会とするとともに、授業を公開した教員にアンケート調査結果をフィードバックして、授業者・参観者双方の資質向上の機会となるように図っている。また、FD・SD研修会については、開催した各講座のプレゼンテーション資料のうちで公開可能なものを学内ポータルサイトに掲載し、全教職員の情報の共有と資質向上に資するよう、配慮している。

また、「3. 広島文教女子大学紀要」及び「4. 広島文教女子大学高等教育研究」には、理論的研究だけでなく、教育実践報告や学修者の実態に関する調査結果等を積極的に掲載して教職員に配付し、教員の資質の維持向上方策の一助としている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 学生による授業評価アンケート（前・後期の2回実施）

前期は7月から8月、後期は1月から3月を回答期間として実施

2. 学修状況調査（後期）

1-3月を回答期間として実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、授業科目ごとの集計結果とともに、教養教育科目、専門教育科目（学科別）及び教職科目ごとにも集計され、学内ポータルサイトで公開されており、教職員や学生が自由に閲覧できる。
また、アンケートの結果、学生による評価の高かった授業科目は、翌年度に公開授業（教員相互の授業参観）の対象科目として公開されている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学，専門職短期大学，専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育学部教育学科では、「教育学・保育学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解した上で総合的に実践できる応用能力の修得に向けた教育を行うこと」及び「学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会への貢献を目指すこと」を教育研究上の目的とし、「教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材」を育成することを目標として、設置の趣旨・目的に駆っている。今日の学校教育の現場における課題は、いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の課題対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICT機器の活用、校種間連携の推進など、複雑化・多様化の様相を呈している。また、地域社会のニーズとして、知識や教育技術において秀でた良質の教員を供給することが求められてもいる。このような学校教育の現状や地域社会の要請に鑑み、教育研究上の目的及び人材育成目標の実現・達成に向けて、引き続き教育・研究活動を推進する。

なお、開設初年度における本学科への志願者数は、入学定員150名に対して1230名、志願倍率は8.2倍となった。これは本学科の設置の趣旨・目的等が社会的要請に十分応えうるものであることを示している。今後も、本学科の特色ある教育の充実に努め、その取り組みと成果を学外に対して積極的に発信し、志願者の拡大・維持に努めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・大学機関別認証評価受診のために作成する自己点検報告書を令和元年10月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公開予定（令和元年10月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受診

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和 2 年 5 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人武田学園

(2) 大学名

広島文教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-0295

広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダヨシテル) 武田 義輝 (平成25年4月)		
学長	(モリシタヨウジ) 森下 要治 (平成29年4月)		
学部長	(オカトシミチ) 岡 利道 (平成31年4月)		
学科長等	(イマザキヒロシ) 今崎 浩 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
教育学部	教育学・保育学関係	年	人	年次	人	
教育学科		4	150	人	600	
初等教育専攻			150		600	
中等教育専攻			120		480	
学士（教育学）			30		120	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 30 () []	人 () []	1.00倍	-	
志願者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	374 () []	[] () []			
受験者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	373 () []	[] () []			
合格者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	100 () []	[] () []			
B 入学者数	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	- () []	30 () []	[] () []			
入学定員超過率 B/A	-		-		-		-		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	30 [0] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	[-] (-)	[-] (-)
4年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	[-] (-)	[-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	30 [0] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成27年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
平成28年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	30 人	0 人	平成27年度	- 人	- 人	
			平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{30} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学部 教育学科 中等教育専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史	1前	2			1						
	発達と学習	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2			1						
	英語基礎演習	2前	2			1	1					
	教師・保育者論	1後	2			1	1					
	教育方法学	1後	2			1	1					
	生徒の理解	1後	1			1						
	野外活動	2前	2			1						
	教育の制度と経営	2後	2					1				
	特別支援教育	2後	2								1	
計(10科目)	-	19	0	0	4	6	0	0	0	0	1	
A 教育・保育の基礎的理解	教育・保育のカリキュラムマネジメント	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法	2後	2				1					
	特別活動指導法	2後	2			1		1				
	生徒指導論	3前	2			1	1					
	学校教育相談	3前	2				1					
B 領域・教科の専門的事項と指導法	総合的な学習とアクティブラーニング	3後	2								1	
	進路指導とキャリア教育	3後	2				1					
	学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1	
	学校教育心理学	4前	2				1					
小計(10科目)	-	2	18	0	2	4	1	0	0	0	2	
B 領域・教科の専門的事項と指導法	日本語学演習	1後	2			1						
	日本語の文字と語彙	2前	2			1						
	日本語のしくみ	2後	2				1					
	日本語の音声	3後	2			1						
	日本語文章論	4前	2				1					
	日本語学講義	4後	2			1						
	表象文化と日本文学	3前	2			1	1					
	こどもと文学	3後	2			1						
	日本文学講義	4前	2				1					
	日本文学概論	1前	2				1					
	日本文学演習	1後	2				1					
	日本文学の歴史	2前	2				1					
	漢文学概論	3前	2								1	
	漢文学演習	3後	2									2
	書写書道演習	1前	2			1						
f 教材の研究と開発(中等国語)	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2						
	中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			1	2					
	中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			1	2					
	中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1					
	中等国語科教育法演習	3後	2			1	1					
g Reading/Writing Strategies	Reading Strategies I	1前	2								1	
	Reading Strategies II	1後	2								1	
	Writing Strategies I	1前	2								1	
	Writing Strategies II	1後	2								1	
	英語学概論	2前	2				1					
	英語の音声	3前	2				1					
	英語ディスコース研究	3後	2			1						
	英語学研究	4前	2				1					
	英語文学概論	2前	2			1						
	英語文学演習	3後	2			1						
	英語文学研究	4前	2			1						
	英語文学史	2後	2			1						

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2				1					
	発達と学習(中・高)	1前	2					2				
	教師論(中・高)	1後	2				1	1			1	
	教育方法学(中・高)	1後	2									
	生徒の理解	1後	1				1					
	野外活動	2前	2				1					
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2					1				
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1
	計(8科目)	-	15	0	0	3	3	0	0	0	0	2
	A 教育・保育の基礎的理解	教育課程論(中・高)	2前	2			1					
道徳教育の理論と方法(中)		2後	2				1					
特別活動指導法(中・高)		2後	2									1
生徒指導論(中・高)		3前	2				1	1				
学校教育相談(中・高)		3前	2									1
B 領域・教科の専門的事項と指導法	総合的な学習の時間の指導法(中・高)	3後	2									1
	進路指導とキャリア教育(中・高)	3後	2					1				
	学校間連携教育	4前		2		2						
	インクルーシブ教育・保育	4前		2								1
	学校教育心理学	4前		2				1				
小計(10科目)	-	14	6	0	2	2	0	0	0	0	4	
B 領域・教科の専門的事項と指導法	日本語学概論	1前	2			1						
	日本語学基礎演習	1後	2			1						
	日本語の歴史	2後	2			1						
	日本語の音声	3後	2			1						
	日本語の文字と語彙	2前	2			1						
	日本語のしくみ	3前	2			1						
	日本語文章論	3後	2			1						
	日本語学演習	3後	2			1						
	日本語学講義	4前	2			1						
	日本文学概論	1前	2					1				
	日本文学基礎演習	1後	2			1						
	日本文学の歴史	2前	2				1					
	表象文化と日本文学	3前	2			1	1					
	日本語文化実地演習	2後	2				1					
	こどもと文学	3後	2			1						
日本文学演習	3前	2				1						
日本文学講義	4前	2				1						
漢文学概論	3前	2									1	
漢文学演習	3後	2									2	
書写書道演習	1前	2			1							
f 教材の研究と開発(中等国語)	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2						
	中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			3	1					
	中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			3	1					
	中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1					
	中等国語科教育法演習	3後	2			1	1					
g Reading/Writing Strategies	Reading Strategies I	1前	2									1
	Reading Strategies II	1後	2									1
	Writing Strategies I	1前	2									1
	Writing Strategies II	1後	2									1
	英語学概論	2前	2				1					
	英語基礎演習	2前	2			1	1					
	英語の音声	3前	2				1					
	英語ディスコース研究	3後	2				1					
英語学研究	4前	2					1					

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	Basic English Communication I	1前	2								3
	Basic English Communication II	1後	2								3
	International Communication Strategies I	3前	2								1
	International Communication Strategies II	3後	2								1
	English for Education	4前	2								1
	Academic English	4後	2								1
	異文化理解	2後	2		2						
	英語科・外国語活動の学び	1後	2		2						
	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2		1						
h	中等英語科教育法 I	2前	2		1						
	中等英語科教育法 II	2後	2		1						
	中等英語科教育法 III	3前	2		1						
	中等英語科教育法演習	3後	2		1						
	小計(45科目)	-	0	90	0	6	3	0	0	0	9
	計(55科目)	-	2	108	0	8	7	1	0	0	11
実践科目	学校教育の体験活動(中・高)	2通	2		1						
	教育実習Ⅳ	3後	2		1	1					
	教育実習Ⅴ	4前	2		1	1					
	教育実習Ⅵ	4前	2		1	1					
	教職実践演習(中・高)	4後	2		1						
	計(5科目)	-	0	10	0	1	1	0	0	0	0
探求科目	教育学入門	1前・1後	2			1					
	教育学研究Ⅰ	2前	2		4	3					
	教育学研究Ⅱ	2後	2		4	3					
	教育学研究Ⅲ	3前	2		4	3					
	教育学研究Ⅳ	3後	2		4	3					
	卒業研究	4前・4後	4		4	3					
	計(6科目)	-	14	0	0	4	4	0	0	0	0
	専門教育科目合計(76科目)	-	35	118	0	8	8	1	0	0	12
人間学	文教学入門	1前	2								1
	日本国憲法	1後	2		1						1
	人生論	3前	2								1
	大学での学びⅠ	1前	1								1
	大学での学びⅡ	1後	1		1	1					
	小計(5科目)	-	4	4	0	2	1	0	0	0	3
A	現代思想と哲学	2~3	2								2
	日本とヒロシマの歴史	2~3	2								1
	文学を読む意味	2~3	2								1
	言葉とコミュニケーション	2~3	2		1						
	欧米と日本	2~3	2		1						
	アジアと日本	2~3	2								2
	社会とジェンダー	2~3	2								1
B	くらしの中の心理学	2~3	2								1
	くらしと経済	2~3	2								1
	くらしと法律	2~3	2								1
	くらしと社会福祉	2~3	2								1
	地域と社会	2~3	2								1
	子どもと社会	2~3	2								1
	人権問題の歩みとその展望	2~3	2								1
C	社会と生命科学	2~3	2								2
	食の科学	2~3	2								1
	からだと健康	2~3	2								2
	くらしと自然	2~3	2		1						
	環境の科学	2~3	2						1		
	食生活と健康	2~3	2								2
	メディアと社会	2~3	2		1						
	小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	22

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	英語文学概論	2前	2			1					
	英語文学演習	3後	2			1					
	英語文学研究	4前	2			1					
	英語文学史	2後	2			1					
	Basic English Communication I	1前	2								3
	Basic English Communication II	1後	2								3
	International Communication Strategies I	3前	2								1
	International Communication Strategies II	3後	2								1
	English for Education	4前	2				1				
	Academic English	4前	2								1
	異文化理解	2後	2		2						
	英語科・外国語活動の学び	1後	2		2						
	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2		1						
h	中等英語科教育法 I	2前	2		1						
	中等英語科教育法 II	2後	2		1						
	中等英語科教育法 III	3前	2		1						
	中等英語科教育法演習	3後	2		1						
	小計(61科目)	-	4	98	0	7	2	0	0	0	7
	計(71科目)	-	18	104	0	9	4	0	0	0	11
実践科目	学校教育の体験活動(中・高)	2通	2		1						
	教育実習Ⅳ	3後	2		2						
	教育実習Ⅴ	4前	2		2						
	教育実習Ⅵ	4前	2		2						
	教職実践演習(中・高)	4後	2		1						
	計(5科目)	-	0	10	0	2	0	0	0	0	0
探求科目	教育学入門	1前・1後	2			1					
	教育学研究Ⅰ	2前	2		5	2					
	教育学研究Ⅱ	2後	2		5	2					
	教育学研究Ⅲ	3前	2		5	2					
	教育学研究Ⅳ	3後	2		5	2					
	卒業研究	4前・4後	4		5	2					
	計(6科目)	-	14	0	0	5	3	0	0	0	0
	専門教育科目合計(80科目)	-	47	114	0	9	5	0	0	0	13
人間学	文教学入門	1前	2								1
	日本国憲法	1後	2		1						1
	人生論	3前	2								1
	大学での学びⅠ	1前	1								1
	大学での学びⅡ	1後	1		1	1					
	小計(5科目)	-	4	4	0	2	1	0	0	0	3
A	現代思想と哲学	2~3	2								2
	日本とヒロシマの歴史	2~3	2								1
	文学を読む意味	2~3	2								1
	言葉とコミュニケーション	2~3	2		1						
	欧米と日本	2~3	2		1						
	アジアと日本	2~3	2								2
	社会とジェンダー	2~3	2								1
B	くらしの中の心理学	2~3	2								1
	くらしと経済	2~3	2								1
	くらしと法律	2~3	2								1
	くらしと社会福祉	2~3	2								1
	地域と社会	2~3	2								1
	子どもと社会	2~3	2								1
	人権問題の歩みとその展望	2~3	2								1
C	社会と生命科学	2~3	2								2
	食の科学	2~3	2								1
	からだと健康	2~3	2								2
	くらしと自然	2~3	2						1		
	環境の科学	2~3	2								1
	食生活と健康	2~3	2								2
	メディアと社会	2~3	2		1						
	小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	22

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
												手
スキル教育科目群	国際教育系 I	英語コミュニケーション I	1前	2								2
		英語コミュニケーション II	1後	2								2
		英語コミュニケーション III	2前	2								2
		英語コミュニケーション IV	2後	2								2
	国際教育系 II	イングリッシュワークショップ I	3前	1								1
		イングリッシュワークショップ II	3後	1								1
		イングリッシュワークショップ III	4前	1								1
		イングリッシュワークショップ IV	4後	1								1
		フランスの言葉と文化 I	2前	2								1
		フランスの言葉と文化 II	2後	2								1
		フランスの言葉と文化 III	3前	2								1
		フランスの言葉と文化 IV	3後	2								1
	情報教育系	中国の言葉と文化 I	2前	2								1
		中国の言葉と文化 II	2後	2								1
		中国の言葉と文化 III	3前	2								1
中国の言葉と文化 IV		3後	2								1	
情報教育系	異文化への理解 I	2前	2								1	
	異文化への理解 II	2後	2								1	
生涯教育系	情報処理演習 I	1前	1								2	
	情報処理演習 II	1後	1								2	
	情報処理演習 III	2前	2								1	
	情報処理演習 IV	2後	2								1	
	運動学演習 I	1前	1		1						1	
	運動学演習 II	1-2-3-4後	1								1	
キャリア形成科目群	運動学演習 III	2前	1								1	
	運動学演習 IV	2後	1								1	
	生涯学習概論	1後	2								1	
	健康とスポーツ	1後	1								1	
キャリア形成科目群	制作技法演習 I	3-4前	1		1						1	
	制作技法演習 II	3-4後	1		1						1	
	障害者コミュニケーション技術	1前	1								1	
	小計(31科目)	—	6	42	0	2	0	0	0	0	11	
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)			—	10	100	0	6	2	0	0	0	31
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					1
		図書館情報技術論	4前		2		1					1
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					1
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						1
	乙群	情報サービス演習	4前		2		1					1
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
		情報資源組織演習	2後		2							1
司書科目 合計(13科目)			—	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1					1	
	学習指導と学校図書	2後		2		1					1	
	読書と豊かな人間性	3後		2		1					1	
	情報メディアの活用	3前		2		1					1	
司書教諭科目 合計(5科目)			—	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(157科目)			—	42	218	34	10	9	1	0	0	42

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
												手
スキル教育科目群	国際教育系 I	英語コミュニケーション I	1前	2								7
		英語コミュニケーション II	1後	2								7
		英語コミュニケーション III	2前		2							2
		英語コミュニケーション IV	2後		2							2
	国際教育系 II	イングリッシュワークショップ I	3前		1							1
		イングリッシュワークショップ II	3後		1							1
		イングリッシュワークショップ III	4前		1							1
		イングリッシュワークショップ IV	4後		1							1
		フランスの言葉と文化 I	2前		2							1
		フランスの言葉と文化 II	2後		2							1
		フランスの言葉と文化 III	3前		2							1
		フランスの言葉と文化 IV	3後		2							1
	情報教育系	中国の言葉と文化 I	2前		2							1
		中国の言葉と文化 II	2後		2							1
		中国の言葉と文化 III	3前		2							1
中国の言葉と文化 IV		3後		2							1	
情報教育系	異文化への理解 I	2前		2							1	
	異文化への理解 II	2後		2							1	
生涯教育系	情報処理演習 I	1前		1							2	
	情報処理演習 II	1後		1							2	
	情報処理演習 III	2前		2							1	
	情報処理演習 IV	2後		2							1	
	運動学演習 I	1前		1		1					1	
	運動学演習 II	1-2-3-4後		1							1	
キャリア形成科目群	運動学演習 III	2前		1							1	
	運動学演習 IV	2後		1							1	
	生涯学習概論	1後		2							1	
	健康とスポーツ	1後		1							1	
	制作技法演習 I	3-4前		1		1					1	
キャリア形成科目群	制作技法演習 II	3-4後		1		1					1	
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							6	
	小計(31科目)	—	6	42	0	2	0	0	0	0	22	
	小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
	教養教育科目 合計(63科目)			—	10	100	0	6	2	0	0	0
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					1
		図書館情報技術論	4前		2		1					1
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					1
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						1
	乙群	情報サービス演習	4前		2		1					1
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
		情報資源組織演習	2後		2							1
司書科目 合計(13科目)			—	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1					1	
	学習指導と学校図書館	2後		2		1					1	
	読書と豊かな人間性	3後		2		1					1	
	情報メディアの活用	3前		2		1					1	
司書教諭科目 合計(5科目)			—	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(161科目)			—	57	214	34	11	10	2	0	0	53

卒業要件及び履修方法
<p>【教養教育科目】</p> <p>① 人間科目群から4単位以上</p> <p>② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上</p> <p>③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上</p> <p>④ ①～③の28単位に加えて、人間科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目19単位、展開科目・探究科目から必修科目16単位を修得し、教養教育科目・基礎科目・展開科目・実践科目から65単位以上、合計128単位以上修得すること。</p> <p>なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。</p> <p>【国語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語学演習、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語の音声、日本文学演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習の全ての単位を修得し、さらに、日本語文庫論、日本語学講義、表象文化と日本文学、子どもと文学、日本文学講義のうち4単位以上を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(英語)></p> <p>教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、英語学概論、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【英語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、英語学概論、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education, Academic Englishのうち2単位を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(国語)></p> <p>教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【司書】</p> <p>司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。</p> <p>【司書教諭】</p> <p>司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。</p> <p>① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。</p> <p>② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。</p>

卒業要件及び履修方法
<p>【教養教育科目】</p> <p>① 人間科目群から4単位以上</p> <p>② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上</p> <p>③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上</p> <p>④ ①～③の28単位に加えて、人間科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上</p> <p>【専門教育科目】</p> <p>教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。</p> <p>なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。</p> <p>【国語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本語学基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文庫論のうち2単位、日本文化実地演習、子どもと文学のうち2単位を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(国語)></p> <p>上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(英語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【英語教育コース】</p> <p><中学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語学演習、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education, Academic Englishのうち2単位を修得すること。</p> <p><高等学校教諭一種免許状(英語)></p> <p>上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。</p> <p><中学校教諭二種免許状(国語)></p> <p>教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。</p> <p>【司書】</p> <p>司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。</p> <p>【司書教諭】</p> <p>司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。</p> <p>① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。</p> <p>② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。</p>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
 - (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・「教育・保育のカリキュラムマネジメント」を「教育課程論」に変更 ・「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法（中・高）」に変更 ・「教師・保育者論」を「教師論（中・高）」に変更 ・「日本語学演習」を「日本語学基礎演習」に変更 ・「日本文学演習」を「日本文学基礎演習」に変更 ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更（元の科目名に（中・高）または（中）を追記） <ul style="list-style-type: none"> ・教育の思想と歴史（中・高） ・発達と学習（中・高） ・教育方法学（中・高） ・教育の制度と経営（中・高） ・特別支援教育（中・高） ・教育課程論（中・高） ・道徳教育の理論と方法（中） ・特別活動指導法（中・高） ・生徒指導論（中・高） ・学校教育相談（中・高） ・進路指導とキャリア教育（中・高） ・教職課程認定における指摘により教員配置を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法学（中・高）（教授1、准教授1から兼任1に変更） ・特別活動指導法（中・高）（教授1、講師1から兼任1に変更） ・学校教育相談（中・高）（准教授1から兼任1に変更） ・課程認定における指摘により教員配置を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・English for Education（兼任1から教授1に変更） ・担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更 <ul style="list-style-type: none"> （准教授1から教授1に変更） ・日本語学概論 ・日本語のしくみ ・日本語文章論 （教授1、准教授1から教授2に変更） ・教育実習Ⅳ ・教育実習Ⅴ ・教育実習Ⅵ （教授4、准教授3から教授5、准教授2に変更） ・教育学研究Ⅰ ・教育学研究Ⅱ ・教育学研究Ⅲ ・教育学研究Ⅳ ・卒業研究 ・教職課程認定における指摘により担当教員（教授1）を追加したこと及び担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更（教授1・准教授2から教授3・准教授1に変更） <ul style="list-style-type: none"> ・中等国語科教育法Ⅰ ・中等国語科教育法Ⅱ ・教職課程認定における指摘により科目区分を変更 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語学概論（基礎科目から展開科目へ移行） ・英語基礎演習（基礎科目から展開科目へ移行） ・教職課程認定における指摘により授業科目（展開科目）の新規追加 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の歴史 ・日本語文化実地演習 ・入学者数の増加に伴いクラスを分割することとしたため、教員配置を変更 <ul style="list-style-type: none"> （兼任2から兼任7に変更） ・英語コミュニケーションⅠ ・英語コミュニケーションⅡ （兼任1から兼任6に変更） ・障害者コミュニケーション技術
--

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
23 科目	116 科目	18 科目	157 科目	29 科目 [6]	114 科目 [Δ2]	18 科目 [-]	161 科目 [4]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{196} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎の建て替えにより校舎敷地が減少した		
	校舎敷地	26,158 26 -362㎡	0㎡	0㎡	26,158 26 -362㎡			
	運動場用地	15,912㎡	0㎡	0㎡	15,912㎡			
	小 計	42,070 42 -274㎡	0㎡	0㎡	42,070 42 -274㎡			
	そ の 他	27,411㎡	0㎡	0㎡	27,411㎡			
	合 計	69,481 69 -685㎡	0㎡	0㎡	69,481 69 -685㎡			
(2) 校 舎	専 用	25,498㎡	0㎡	0㎡	25,498㎡			
	(25,498㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(25,498㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	3室	19室	5室	1室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			予定していた専任教員研究室をゼミ室として使用することとしたため		
	教育学部 教育学科		21 23 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]					[うち外国書]
	教育学部	冊	種	点	点	点		
		95,965 [18,972] (95,056 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,547)	246 (202)	15 (6)	
計	95,965 [18,972] (95,056 [18,972])	828 [300] (810 [300])	293 [292] (293 [292])	1,560 (1,547)	246 (202)	15 (6)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	3,000㎡		290席		300,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
	3,103㎡		テニスコート: 2,769㎡		プール: 827㎡			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	250千円	250千円	図書購入費	1235千円	1235千円	1235千円
	共 同 研 究 費 等	0千円	0千円	設備購入費	1900千円	4000千円	800千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
		1250千円	1250千円	1250千円	1250千円	0千円	0千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	〇〇大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	150	0	600	学士 (教育学)	1.12	-	令和元	-	
教育学科	4	150	0	600	学士 (教育学)	1.12	-	令和元	広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1	
初等教育専攻	4	120	0	480	学士 (教育学)	1.15	-	令和元	同上	
中等教育専攻	4	30	0	120	学士 (教育学)	1.00	-	令和元	同上	
人間科学部	4	240	3年次 35	1,030	-	0.81	令和元	昭和41	同上	平成12年文学部から 学部名称変更 令和元年学生募集 停止
初等教育学科	4	-	-	-	学士 (文学)	1.29	-	昭和56	同上	
人間福祉学科	4	60	3年次 20	280	学士 (文学)	0.56	令和元	平成12	同上	定員変更 (△20)
心理学科	4	50	3年次 10	220	学士 (文学)	0.75	令和元	平成14	同上	定員変更 (△20)
人間栄養学科	4	70	0	280	学士 (栄養学)	0.84	-	平成14	同上	
グローバルコミュニケーション学科	4	60	3年次 5	250	学士 (文学)	0.57	令和元	平成22	同上	定員変更 (△10)
大学全体	4	390	35	1,630	-	0.78	-	-	-	
大学の名称	〇〇短期大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍				
該当なし										

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
 (専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学部 教育学科> (中等教育専攻)

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和元年度】	
専任・兼任の別	氏名 (年齢) 年 月 <就任(予定)年 月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任の別	氏名 (年齢) 年 月 <就任(予定)年 月> 保有学位等 担当授業科目名
専	岡 利 進 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 教師・保育者論 ※ こどもと文学 ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 読書と豊かな人間性	専	岡 利 進 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 教師論(中・高) ※ こどもと文学 ※ 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 読書と豊かな人間性
専	石 原 義 文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 英語科・外国語活動の学び 異文化理解	専	石 原 義 文 (61) <平成31年4月> 修士(教育学) 英語科・外国語活動の学び 異文化理解 English for Education
専	今 崎 浩 (56) <平成31年4月> 修士(教育学) 特別活動指導法 ※ 生徒指導 ※ 学校関連連携教育 ※ 大学での学びⅡ ※	専	今 崎 浩 (56) <平成31年4月> 修士(教育学) 特別活動指導法(中・高) ※ 生徒指導(中・高) ※ 学校関連連携教育 ※ 大学での学びⅡ ※
専	川 西 正 行 (63) <平成31年4月> 教育学修士 運動学演習Ⅰ	専	川 西 正 行 (63) <平成31年4月> 教育学修士 運動学演習Ⅰ
専	小 西 弘 信 (55) <平成31年4月> 文学修士 英語基礎演習 英語テキストコース研究 英語文化演習 英語文学演習 英語文学研究 英語文化史 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 欧米と日本	専	小 西 弘 信 (55) <平成31年4月> 文学修士 英語基礎演習 英語テキストコース研究 英語文化演習 英語文学演習 英語文学研究 英語文化史 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 欧米と日本
専	笹 間 豊 造 (69) <平成31年4月> 修士(教育学) 学校教育の体験活動(中・高) 生徒の理解 異文化理解 英語科・外国語活動の学び 教材の研究と開発(中等英語) 中等英語科教育法Ⅰ 中等英語科教育法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅲ 中等英語科教育法演習 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育実習Ⅶ 教育実習Ⅷ 教育実習Ⅷ(中・高) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	笹 間 豊 造 (69) <平成31年4月> 修士(教育学) 学校教育の体験活動(中・高) 生徒の理解 異文化理解 英語科・外国語活動の学び 教材の研究と開発(中等英語) 中等英語科教育法Ⅰ 中等英語科教育法Ⅱ 中等英語科教育法Ⅲ 中等英語科教育法演習 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育実習Ⅶ 教育実習Ⅷ 教育実習Ⅷ(中・高) 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	杉 山 浩 之 (60) <平成31年4月> 教育学修士 ※ 教育・保育の資料・教材の制作 ※ 野外活動 学校関連連携教育 ※	専	杉 山 浩 之 (60) <平成31年4月> 教育学修士 ※ 教育方法論(中・高) ※ 教育実習(中・高) ※ 野外活動 学校関連連携教育 ※
専	橋 村 勝 明 (50) <平成31年4月> 博士(文学) 日本語学演習 日本語の文字と語彙 日本語の音声 教材の研究と開発(中等国語) ※ 日本語学講義 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 言葉とコミュニケーション	専	橋 村 勝 明 (50) <平成31年4月> 博士(文学) 日本語学演習 日本語の文字と語彙 日本語の音声 教材の研究と開発(中等国語) ※ 日本語学講義 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 言葉とコミュニケーション
専	村 上 典 章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学) 日本国憲法 ※	専	村 上 典 章 (63) <平成31年4月> 修士(教育学) 日本国憲法 ※
専	森 野 之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学) 書写書道演習 表象文化と日本文学 ※ 教材の研究と開発(中等国語) ※ 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ	専	森 野 之 (50) <平成31年4月> 修士(教育学) 書写書道演習 表象文化と日本文学 ※ 教材の研究と開発(中等国語) ※ 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 制作技法演習Ⅰ 制作技法演習Ⅱ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	上 利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)	英語基礎演習 英語学概論 英語の音声 英語学研究 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	准教授	上 利 学 (53) <平成31年4月> 修士(文学)	英語基礎演習 英語学概論 英語の音声 英語学研究 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	猪 川 優 子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)	日本文学概論 日本文学演習 日本文学の歴史 表象文化と日本文学 ※ 日本文学講義 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 学習指導と学校図書館	専	准教授	猪 川 優 子 (45) <平成31年4月> 博士(文学)	日本文学概論 日本文学演習 日本文学の歴史 表象文化と日本文学 ※ 日本文学講義 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 中等国語科教育法Ⅲ ※ 中等国語科教育法演習 ※ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究 学習指導と学校図書館
専	准教授	上 村 加 奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育・保育の別荘51777ノット ※	専	准教授	上 村 加 奈 (54) <平成31年4月> 修士(教育学)	教育・保育の別荘51777ノット ※
専	准教授	黒 木 晶 子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	日本語学概論 日本語のしくみ 日本文学論 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究	専	教授	黒 木 晶 子 (49) <平成31年4月> 修士(教育学)	日本語学概論 日本語のしくみ 日本文学論 中等国語科教育法Ⅰ ※ 中等国語科教育法Ⅱ ※ 教育実習Ⅳ 教育実習Ⅴ 教育実習Ⅵ 教育学研究Ⅰ 教育学研究Ⅱ 教育学研究Ⅲ 教育学研究Ⅳ 卒業研究
専	准教授	三 田 幸 司 (54) <平成31年4月> 博士	大学での学びⅡ ※ くらしと自然	専	准教授	三 田 幸 司 (54) <平成31年4月> 博士	大学での学びⅡ ※ くらしと自然
専	准教授	庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)	教育方法学 ※ メディアと社会 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス実習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館	専	准教授	庄(小川) ゆかり (53) <平成31年4月> 博士(学術)	教育方法学(中・高) ※ メディアと社会 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス実習 図書館サービス特論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用 学校経営と学校図書館
専	准教授	白 石 崇 人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育の思想と歴史 教師・保育者論 ※ 教育学入門 教育の制度と経営 道徳教育の理論と方法	専	准教授	白 石 崇 人 (39) <平成31年4月> 博士(教育学)	教育の思想と歴史(中・高) ※ 教師論(中・高) ※ 教育学入門 教育の制度と経営(中・高) ※ 道徳教育の理論と方法(中)
専	准教授	新 井 直 子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習 ※ 進路指導とキャリア教育 生涯指導論 ※ 学校教育心理学	専	准教授	新 井 直 子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) ※ 生涯指導論(中・高) ※ 学校教育心理学
専	准教授	牧 亮 太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習 ※ 学校教育相談	専	准教授	牧 亮 太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※ 学校教育相談(中・高)
専	講師	大 野 内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※	特別活動指導法 ※				
兼担	教授	豊 後 宏 記 (60) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生産学習概論 プレゼンテーション技法	兼担	教授	豊 後 宏 記 (60) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ プレゼンテーション技法
兼担	教授	宮 嶋 洋 一 (55) <平成31年4月> 博士(文学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人志論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史	兼担	教授	宮 嶋 洋 一 (55) <平成31年4月> 博士(文学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人志論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味	兼担	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼担	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ	兼担	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼担	教授	樋田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士※	子どもと社会	兼担	教授	樋田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士※	子どもと社会
兼担	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康	兼担	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼担	教授	河村 大造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)	食の科学				
兼担	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学	兼担	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼担	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学	兼担	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼担	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康	兼担	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼担	教授	松原 洋一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済	兼担	教授	松原 洋一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼担	准教授	阿武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学	兼担	准教授	阿武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼担	准教授	伊藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※	兼担	准教授	伊藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼担	准教授	尾崎 英司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学	兼担	教授	尾崎 英司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼担	准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	日本国憲法 ※ くらしと社会福祉	兼担	准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	日本国憲法 ※ くらしと社会福祉
兼担	准教授	清瀬 淳 (46) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会	兼担	准教授	清瀬 淳 (46) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会
兼担	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	Reading Strategies I Reading Strategies II イングリッシュコミュニケーションⅠ イングリッシュコミュニケーションⅡ イングリッシュコミュニケーションⅢ イングリッシュコミュニケーションⅣ	兼担	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	Basic English Communication I Basic English Communication II Reading Strategies I Reading Strategies II イングリッシュコミュニケーションⅠ イングリッシュコミュニケーションⅡ イングリッシュコミュニケーションⅢ イングリッシュコミュニケーションⅣ
兼担	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	Writing Strategies I Writing Strategies II 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼担	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	Basic English Communication I Basic English Communication II Writing Strategies I Writing Strategies II 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 講師		Gary Cook Graham (46) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ユークラフ)	Basic English Communication I Basic English Communication II 英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	兼任 講師		Gary Cook Graham (46) <平成31年6月> Master of Arts in Applied Linguistics (ユークラフ)	英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV
兼任 講師		Lorna Layantes Beduya (46) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English (リレイ)	Basic English Communication I Basic English Communication II	兼任 講師		Lorna Layantes Beduya (46) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English (リレイ)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
兼任 講師		Yukari Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in LINGUISTICS (英国)	Basic English Communication I Basic English Communication II	兼任 講師		Yukari Rutson-Griffiths (31) <平成31年6月> Master of Arts in LINGUISTICS (英国)	Basic English Communication I Basic English Communication II
兼任 講師		Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米国)	International Communication Strategy I International Communication Strategy II English for Education	兼任 講師		Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米国)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II International Communication Strategy I International Communication Strategy II
兼任 講師		Jordan David Svien (36) <平成31年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英国)	Academic English	兼任 講師		Jordan David Svien (36) <平成31年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英国)	Academic English
兼任 講師		小原 寿美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成理論 I キャリア形成理論 II インターンシップ コミュニケーションとソーシャルスキル ビジネス文書	兼任 講師		小原 寿美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成理論 I キャリア形成理論 II インターンシップ コミュニケーションとソーシャルスキル ビジネス文書
兼任 講師		和上 順子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III 情報処理演習 IV	兼任 講師		和上 順子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III 情報処理演習 IV
兼任 講師		Renaud Jonathan Davies (31) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	兼任 講師		Renaud Jonathan Davies (31) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
				兼任 講師		Julia Deley Amalia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米国)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
				兼任 講師		Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
				兼任 講師		Cristina Tong Maliban (47) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
				兼任 講師		小川 遼史 (69) <平成31年4月> 教育学士	教育方法学(中・高)
兼任 助教		戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※	兼任 助教		戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※
兼任 講師		高橋 泰道 (60) <令和4年4月> 修士(教育学)	総合的な学習とアクティブラーニング	兼任 講師		高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	総合的な学習の指導法(中・高)
兼任 講師		若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	インクルーシブ教育・保育	兼任 講師		若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	インクルーシブ教育・保育
兼任 講師		宮本 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別支援教育	兼任 講師		宮本 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別支援教育(中・高)
兼任 講師		衛藤 吉剛 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学	兼任 講師		衛藤 吉剛 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	河野 美 紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	兼任	講師	河野 美 紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	戸板 律 子 (56) <令和2年4月> 学術博士	兼任	講師	戸板 律 子 (56) <令和2年4月> 学術博士
		フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ			フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任	講師	沼田 有 史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	沼田 有 史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)
		日本とヒロシマの歴史			日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓 史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	講師	野村 卓 史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)
		現代思想と哲学			現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 し づ (65) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	桃井 し づ (65) <平成31年4月> 文学士
		障害者コミュニケーション技術			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	山川 秀 進 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	山川 秀 進 (35) <令和2年4月> 修士(法学)
		くらしと法律			くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士
		人権問題の歩みとその展望			人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森川 浩 夫 (65) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	森川 浩 夫 (65) <令和3年4月> 文学士
		図書館制度・経営論			図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士
		図書館サービス概論			図書館サービス概論
兼任	講師	土 肥 善 嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	兼任	講師	土 肥 善 嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)
		情報資源組織論 情報資源組織演習			情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂 免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	堂 免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士
		学校経営と学校図書館			学校経営と学校図書館
兼任	講師	山 田 浩 之 (66) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	山 田 浩 之 (66) <令和2年4月> 博士(教育学)
		特別活動指導法(中・高)			特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山 田 洋 平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	山 田 洋 平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)
		学校教育相談(中・高)			学校教育相談(中・高)
兼任	講師	岡 真 智 子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	岡 真 智 子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)
		生涯学習概論			生涯学習概論
兼任	講師	上土屋 福 雄 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	兼任	講師	上土屋 福 雄 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	大 西 康 雄 (72) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	大 西 康 雄 (72) <平成31年4月> 文学士
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	川 本 進 夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	兼任	講師	川 本 進 夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	梶 田 明 子 (87) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	兼任	講師	梶 田 明 子 (87) <平成31年4月> ろう学校高等部卒
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	山 本 和 康 (80) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	山 本 和 康 (80) <平成31年4月> 文学士
		障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 認可申請書又は障害届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**届出時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に関する届出書作成の手引き」の「職員名簿」を参照してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(研)、実(研)、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、直してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、岡教授（専任）担当科目「教師・保育者論※」を「教師論（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、岡教授（専任）に担当科目「中等国語科教育法Ⅰ※」「中等国語科教育法Ⅱ※」を追加
- ・教職課程認定における指摘により石原教授（専任）に担当科目「English for Education」を追加
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、今崎教授（専任）担当科目「特別活動指導法※」を「特別活動指導法（中・高）※」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、杉山教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（中・高）※」に、「教育・保育のかわらぬ学びの心※」を「教育課程論（中・高）※」に変更
- ・黒木晶子准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、庄（小川）准教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、白石准教授（専任）担当科目「教育の思想と歴史」を「教育の思想と歴史（中・高）」に、「教師・保育者論※」を「教師論（中・高）※」に、「教育の制度と経営」を「教育の制度と経営（中・高）」に「道徳教育の理論と方法」を「道徳教育の理論と方法（中・高）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、新見准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（中・高）※」に、「進路指導とキャリア教育」を「進路指導とキャリア教育（中・高）」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論（中・高）※」に変更
- ・牧准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（中・高）※」に、「学校教育相談」を「学校教育相談（中・高）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により大野内講師（専任）担当科目「特別活動指導法※」を削除
- ・河村大造教授（兼任）辞任により担当教育表から削除
- ・尾崎英司准教授（兼任）の昇任により職名を教授に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Arthur Rutson-Griffiths講師（兼任）に担当科目「Basic English CommunicationⅠ」「Basic English CommunicationⅡ」を追加
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Richard Terry Sugg講師（兼任）に担当科目「Basic English CommunicationⅠ」「Basic English CommunicationⅡ」・「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・教職課程認定における指摘によりGary Cook Graham講師（兼任）担当科目「Basic English CommunicationⅠ」「Basic English CommunicationⅡ」「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・教職課程認定における指摘により、初等教育と中等教育を区別するため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）担当科目「Basic English CommunicationⅠ」を「英語コミュニケーションⅠ」に、「Basic English CommunicationⅡ」を「英語コミュニケーションⅡ」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Kelly Eileen Rose講師（兼任）に担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・教職課程認定における指摘によりKelly Eileen Rose講師（兼任）担当科目「English for Education」を削除
- ・Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の年齢訂正
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Tyler Montgomery講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Cristina Tong Mallimban講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、小川雅史講師（兼任）挿入 担当科目「教育方法学（中・高）」
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、高橋泰道講師（兼任）担当科目「総合的な学習の指導法（中・高）」変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、宮本秀雄講師（兼任）担当科目「特別支援教育」を「特別支援教育（中・高）」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたこと及び授業方法の見直しにより、桃井しづ（兼任）講師担当科目「障害者コミュニケーション技術」を「障害者コミュニケーション技術※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により専任教員担当予定であった科目「特別活動指導法（中・高）」を山田浩之（兼任）講師に変更
- ・教職課程認定における指摘により山田洋平（兼任）講師の挿入 担当科目「学校教育相談（中・高）」
- ・教職課程認定における指摘により國貞智子（兼任）講師の挿入 担当科目「生涯学習概論」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、上土居理絵（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、大西章雄（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、川本忠夫（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、春田明子（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、山本和奈（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
11	9	1	0	21	10	9	1	0	20
(10)	(9)	(1)	(0)	(20)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
10	9	1	0	20	10	9	1	0	20
[△ 1]	[0]	[0]	[0]	[△ 1]	[△ 1]	[0]	[0]	[0]	[△ 1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△ 1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△ 1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△ 1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{20}{21} = \boxed{95.23} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{1}{20} = \boxed{5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年)	該当なし	該当なし	該当なし

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科> (初等教育専攻)

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的として、高等教育研究センターを設置し、目的を達成のための具体的事項は、学長補佐1名を含む教員10名と事務職員4名(令和元年度)で構成する運営委員会において検討・審議を行っている。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

高等教育研究センター運営委員会は、毎月1回の開催で平成30年度は12回開催し、毎回の会議ではほぼ全員の委員が出席した。

c 委員会の審議事項等

高等教育研究センター運営委員会審議事項

(広島文教大学高等教育研究センター運営委員会規程第2条)

- (1) 広島文教大学高等教育研究センター(以下「センター」という。)の業務及び運営に関する事。
- (2) その他センターに関し必要な事項に関する事。

広島文教大学高等教育研究センターの業務

(広島文教大学高等教育研究センター規程第3条)

- (1) 高等教育に係る調査及び研究に関する事。
- (2) 高等教育の質保証に係る支援及び推進に関する事。
- (3) 高等教育に関する情報の収集及び分析に関する事。
- (4) 情報の公開に関する事。
- (5) 将来構想の企画・立案に関する事。
- (6) ファカルティ・デベロップメントに関する事。
- (7) センター刊行物の編集及び刊行に関する事。
- (8) 研究倫理に関する事。
- (9) その他、センターの目的を達成するために必要な業務

② 実施状況

a 実施内容

<平成30年度実績>

1. 公開授業(教員相互の授業参観)の実施
2. FD・SD研修会の実施
3. 広島文教女子大学紀要の発行
4. 広島文教女子大学高等教育研究の発行

※ 昨年度(平成30年度)の高等教育研究センター運営委員会では「新任教員研修プログラム」について検討し、今年度から実施する予定

b 実施方法

1. 公開授業(教員相互の授業参観)

学生による授業評価アンケートの結果に基づいて、評価の高い授業を前・後期それぞれ5科目づつ公開授業対象科目として決定し、教職員に周知している。

2. FD・SD研修会

毎回の研修会について、高等教育研究センター運営委員会でテーマを設定し、学内から教員、事務職員を問わず適任者を講師として選出・決定して実施している。

3. 広島文教女子大学紀要の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

4. 広島文教女子大学高等教育研究の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準と教員の研究能力の維持向上を図っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 公開授業（教員相互の授業参観）

前期（7月第2週目―第3週目）：5科目の公開授業を計画していたが、西日本豪雨の影響により中止

後期（12月第2週目―第3週目）：5科目の公開授業を実施し、出席参観者総数は37名

※ アンケート回答（18名）では総じて他の授業を参観して自身の授業改善の参考になったとの意見が多数寄せられた

2. FD・SD研修会

夏期（8月23日、24日）：2日間にわたり、分科会では5講座、全体会では3講座を実施。（参加者89名）

冬期（3月8日）：分科会で3講座、全体会で3講座を実施。（参加者67名）

3. 広島文教女子大学紀要

教員の研究活動支援促進として、広島文教女子大学紀要53巻を発行し、6編の原著論文を掲載。

4. 広島文教女子大学高等教育研究

教員の研究活動支援促進として、広島文教女子大学高等教育研究第5巻を発行し、7編の原著論文を掲載。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質の維持向上を目的とするFD・SD活動のうち、「1. 公開授業」及び「2. FD・SD研修会」については、実施後に参加者へのアンケート調査を行っている。公開授業については、参加者のFDの機会とするとともに、授業を公開した教員にアンケート調査結果をフィードバックして、授業者・参観者双方の資質向上の機会となるように図っている。また、FD・SD研修会については、開催した各講座のプレゼンテーション資料のうちで公開可能なものを学内ポータルサイトに掲載し、全教職員の情報の共有と資質向上に資するよう、配慮している。

また、「3. 広島文教女子大学紀要」及び「4. 広島文教女子大学高等教育研究」には、理論的研究だけでなく、教育実践報告や学修者の実態に関する調査結果等を積極的に掲載して教職員に配付し、教員の資質の維持向上方策の一助としている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 学生による授業評価アンケート（前・後期の2回実施）

前期は7月から8月、後期は1月から3月を回答期間として実施

2. 学修状況調査（後期）

1-3月を回答期間として実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、授業科目ごとの集計結果とともに、教養教育科目、専門教育科目（学科別）及び教職科目ごとにも集計され、学内ポータルサイトで公開されており、教職員や学生が自由に閲覧できる。

また、アンケートの結果、学生による評価の高かった授業科目は、翌年度に公開授業（教員相互の授業参観）の対象科目として公開されている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学，専門職短期大学，専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育学部教育学科では、「教育学・保育学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解した上で総合的に実践できる応用能力の修得に向けた教育を行うこと」及び「学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会への貢献を目指すこと」を教育研究上の目的とし、「教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材」を育成することを目標として、設置の趣旨・目的に駆っている。今日の学校教育の現場における課題は、いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の課題対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICT機器の活用、校種間連携の推進など、複雑化・多様化の様相を呈している。また、地域社会のニーズとして、知識や教育技術において秀でた良質の教員を供給することが求められてもいる。このような学校教育の現状や地域社会の要請に鑑み、教育研究上の目的及び人材育成目標の実現・達成に向けて、引き続き教育・研究活動を推進する。

なお、開設初年度における本学科への志願者数は、入学定員150名に対して1230名、志願倍率は8.2倍となった。これは本学科の設置の趣旨・目的等が社会的要請に十分応えうるものであることを示している。今後も、本学科の特色ある教育の充実に努め、その取り組みと成果を学外に対して積極的に発信し、志願者の拡大・維持に努めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・大学機関別認証評価受診のために作成する自己点検報告書を令和元年10月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公開予定（令和元年10月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受診

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和 2 年 5 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。